

沿革

明治36年	4月	熊本県立高等女学校として 熊本市南千反畑町に開校
38年	3月	熊本市の戴内町に移転
大正10年	3月	熊本県立第一高等女学校と改称
10年	4月	熊本県立第二高等女学校開校
昭和23年	4月	熊本県立第一高等女学校と 熊本県立第二高等女学校が合併し 熊本県立熊本女子高等学校が開校
24年	4月	熊本県立第一高等学校と改称 (男女共学開始)
34年	3月	現在地(熊本市古城町)に移転
62年	4月	普通科内に「英語コース」1学級設置
平成15年	10月	創立100周年記念式典挙行
24年	4月	34年ぶりに男子70人が入学
25年	10月	創立110周年記念式典挙行
28年	4月	男子生徒在籍数が約4割に到達



A 船着き場(図書館裏)

隈本城への物資は、運河として利用された坪井川から、ここを通して運び入れられた。



B 横穴墓群と本丸跡(グランド西屋と高台)

古城横穴墓群と呼ばれ、6世紀末から7世紀にかけて造られたものが主である。また、現在セミナーハウスや寄宿舎の建つこの高台は、隈本城本丸跡とみなされている。

規模：高さ15m、巾100m、3段に53基の横穴墓が存在。
出土品：須恵器、勾玉、管玉、剣、金環など。



C 徳富蘇峰「清香」石碑(清香館前)

評論家、歴史家。かつて熊本洋学校に学んだ徳富蘇峰が創立50周年記念に90歳の時に書いたもの。昭和29年水俣市、熊本市の名誉市民となる。著書は300冊に及び「吉田松陰」「時務一家言」「大正の青年と帝国の前途」などがある。



THE HISTORY OF KUMAMOTO DAIICHI HIGH SCHOOL

歴史が息づく環境から、
優秀な人材が巣立っていった。



第一高校校舎・施設図

この地図は由緒ある史跡と現在の位置関係を表したもの

今から約150年前の熊本の新時代は、現第一高校の地から始まりました。明治3年、現正門付近には医学校及び洋式の病院が設立されました。医学校では、後の日本医学会を代表する北里柴三郎も学んでいます。明治4年、現体育館の地には、熊本洋学校が開校され、洋学校からは、当時の政治や社会、文化等をリードした徳富蘇峰ら、明治の新時代を担う多くの人材が、続々と世に出ました。

～先人に思いを馳せて～ 著名な卒業生

夏雲の湧きて
さだまる心あり

D 中村汀女句碑(体育館前)

県立第一高等女学校卒業、俳人。
「とどまればあたりにふゆる蜻蛉かな」
「外にも出よ触るばかりに春の月」
などが代表句。昭和54年熊本市名誉市民、昭和55年文化功労者。



E 安永落子歌碑(途上の道)

熊本市御徒町出身の歌人。本校創立百周年を迎えるにあたり、これを記念して詠まれた歌である。「学習の“習”の一字は、鳥が白い羽をひらいて飛びたつ力を三年間に蓄積するのです。迷わず一途に、全力をあげて学んで下さい。」との後輩へのメッセージが込められている。

昭和13年……熊本県立第一高等女学校卒
昭和60年……熊本県教育委員長
平成4年……熊本県近代文化功労者顕彰
平成10年……宮中歌会始詠進歌選者(～19年)
平成12年……熊本県文化協会会長
平成21年……熊本市名誉市民
平成24年……ご逝去

純白の羽をひらきて大空に
翔びたつまでを学べひたすら